

報告

松野クララ記念歴史に学ぶ会

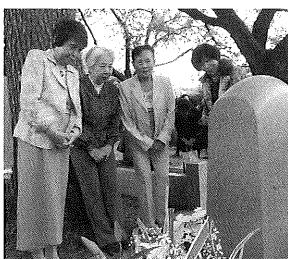
第一回講演会報告

（お茶の水女子大学附属幼稚園）

宮里 晓美

顕彰碑建設を記念して、歴史に学び、今そして明日を創り出す会をつくりていこうという声が集まり、松野クララ記念歴史に学ぶ会が発足し、平成二十四年十一月三日、顕彰碑をお参りした後に、第一回目の講演会を実施しました。

◇顕彰碑に花をささげ、語り合いが始まる



青空が広がったさわやかな秋の日、顕彰碑の周りでは、一年ぶりの再会を喜ぶ声や、顕彰碑を眺めながら懐かしく語り合う人々の姿が見られました。

◇歴史をたどる講演会

演題 「木戸孝允の人柄～その先見性と情緒、

木戸侯爵家について」

講師 和田昭允氏（東京大学名誉教授、

お茶の水女子大学元理事、名誉学友）

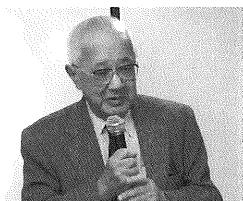
会場 青山フロラシオン 松の間

日本の林業教育の先駆者であつた松野^{はまね}碑はドイツ留学中にクララと知り合い、互いに愛を誓い合いました。

青山靈園外人墓地内にある

松野家の墓は、大きな松の木が目印です。顕彰碑にはきれいな花が飾されました。

した。二人の結婚は、松野が帰国した後に日本で実現するわけですが、結婚を支え実現へと導いた恩人ともいうべき人が木戸孝允であり、和田先生は、その曾孫にあたられます。



▲和田昭允氏

講演会では、詳細な資料や写真などをもとに、木戸孝允の人柄や先見性についての話を聞きし、明治という時代に思いをはせる時間となりました。その後、参加者からの質疑応答の時間となり、歴史についての熱い語り合いが続きました。参加者の声を幾つか紹介します。

○ 松野クララを語る上では欠くことのできない話をお聞きできた。「木戸孝允日記」の中に、クララのことが詳細に書いてある。「クララは、はるばる海を越えてやってきた、まことにけなげである」と書いている。木戸は直接に関係のない人のことをよく面倒を見ている。クララに同情し助けている木戸は、情の人、情緒の人だと思う。

○ 一年前に顕彰碑の除幕式に出させていただき、その後の茶話会で和田先生が木戸の子孫であると知り、ゆつくり話を伺いたいと思つていた。松野クララが日本で最初の幼稚園の主任保姆となつた顛末を「幸運なことに」と書かれていることがあるけれど、そうだろうか。ある程度予定されていたのじやないかという考えも浮かんでくる。

○ 松野磧の帰国後、クララが一年ドイツに残つたのは、幼稚園教師の免許を取るために必要な時間だったのではないか。日本に来て、クララは豊田美雄や近藤濱にきつと幼児教育を教えていれる。これは急に頼まれてできることではないと思う。

次々に語られる意見は興味深く、さらに考えて行きたい内容ばかりでした。歴史の面白さ、奥深さに触れた一日でした。

